

公表	事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）
----	----------------------------

○事業所名	アクロステクニカルカレッジ		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	後半のプログラムでは、小集団での活動を通して、社会性や表現力、協調性の育成を大切にしています。集団ならではの体験やコミュニケーションを重ねる中で、多様な価値観や考え方に触れながら、自分らしく挑戦できる機会を提供しています。	SSTや語彙力の向上をはじめ、ChatGPTなどのAIツールを活用した活動、PowerPointを用いたプレゼンテーション練習、クッキング、運動プログラム、ビジョントレーニング、英会話、プログラミングなど、幅広い内容のプログラムを実施しております。それぞれの活動においては、目的や狙いを明確にし、新たな気付きや経験に繋がるよう工夫しております。	各活動後の振り返りや、自身の得意分野・興味関心の再認識に繋がるよう、記録や共有の仕組みの充実を図り、自己理解と自信の向上に結びつく支援を強化してまいります。また、より幅広い分野に触れる機会を提供できるよう、利用者さんの興味関心を取り入れたプログラムの開発にも継続して取り組んでまいります。
2	保護者の皆さまに安心してご利用いただけるよう、利用者さんの日々の活動の様子を丁寧に記録し、ご家庭との情報共有を大切にしております。また、活動中の様子や変化についても分かりやすくお伝えできるよう心がけ、日々の関わりの中で見られた成長や気付きを共有することで、ご家庭と連携した支援に繋がります。	当日の取り組み内容だけでなく、「どのような意図や狙いを持って活動を行ったか」「利用者さんがどのように関わり、どのような気付きや成長が見られたか」といった視点も大切にし、記録に反映するよう努めております。また、活動中の様子を撮影した写真を毎月まとめてご家庭にお届けすることで、文章だけでは伝わりにくい表情や雰囲気についても、視覚的にご確認いただけるようにしています。こうした取り組みを通して、日々の小さな成長や努力を保護者の皆さまと共有しながら見守っていくことを大切にしております。	保護者の方からいただいたご意見を、記録や写真共有の質の向上に活かしながら、より分かりやすく伝わる支援記録のあり方を検討してまいります。また、必要に応じて個別記録の振り返りに関する面談等も行い、ご家庭との連携を一層深めていけるよう努めてまいります。
3	個人学習の時間を活用しながら、それぞれの「得意な分野をさらに伸ばしたい」「苦手な部分に取り組みたい」といったお気持ちや目標に応じた支援を行っております。また、面談などの機会を通して、利用者さんや保護者の方と丁寧に話し合いを重ね、将来を見据えた取り組み内容を一緒に考え、設定しています。	個別に設定した目標に基づき、「タイピングスキルの向上」「受験対策としての数学学習」「パソコン検定に向けた学習」「敬語や言葉遣いの習得」「面接や自己PRの練習」など、それぞれの進路やニーズに応じた支援を行っております。また、学習中は声かけやフィードバックを通して、自ら振り返りを行い、次の取り組みに繋げていく姿勢を育めるよう支援しております。	学習の成果や取り組みの変化をより分かりやすく把握できるよう、学習記録の見直しや振り返りシートの導入を検討しております。また、学習内容の幅を広げるとともに、多様なニーズに対応できるよう、教材や支援方法の充実にも取り組んでまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会や、ペアレントトレーニング等の学びの場を十分に提供できていない状況があります。	平日日中は就労移行支援の運営を行っていることや、放課後等デイサービスの活動時間が夕方からであることから、時間やスペースに一定の制約がある状況です。また、共働き世帯のご家庭も多く、事業所が平日のみの営業であるため、保護者の方が日中に参加されることが難しいケースも見受けられます。さらに、保護者同士の交流については、「他の保護者と繋がりを持たたい」というご希望と、「プライベートはあまり共有したくない」というご意向の双方があり、個々のニーズに配慮しながら検討していく必要があると考えております。	事業所内での対面実施に限らず、オンラインでの意見交換やアンケート形式による情報共有など、参加しやすく心理的負担の少ない方法について検討を進めてまいります。また、個別相談の機会を充実させるとともに、保護者の方が必要なタイミングで情報を得られる仕組みも含め、家庭支援のあり方について段階的に検討してまいります。
2	活動スペースに限りがあるため、運動を伴う活動や身体を大きく動かすプログラムを実施する際に、十分な広さを確保しにくい場面がございます。	放課後等デイサービスと就労移行支援を併設した多機能型事業所であるため、パソコンを複数台、常に設置している環境となっております。就労移行支援においてはパソコンの常設が必要であり、放課後等デイサービスにおいても日常的な支援の一環としてパソコンを活用しています。そのため、事業所内のスペースには一定の制約が生じやすく、活動内容によっては空間の使い方に工夫が必要な状況となっております。	限られたスペースの中でも柔軟に活動を行えるよう、用途に応じたレイアウト変更の工夫や、必要に応じた外部スペースの活用について検討してまいります。また、ICT機器やデジタル教材を活用し、場所にとらわれず実施可能な活動の充実を図ることで、環境に制約がある中でも多様な体験を提供できるよう努めてまいります。
3	地域との交流や連携に関する取り組みが十分とは言えず、地域資源の活用や外部との関わりを深める機会が限られている状況です。	利用者さんの中には、外部との交流に不安や抵抗感を持たれる方や、過度な刺激を避けたいというご家庭のご意向もあります。そのため、外部との関わりを広げる際には、利用者さんの負担や不安が大きくなるよう、状況や特性に応じて慎重に判断する必要があると考えております。	全体一律での実施ではなく、希望される方が参加できる任意制の小規模な体験や、事業所内に地域の方をお招きする形式など、段階的で安心感のある交流の機会を検討してまいります。利用者さんや保護者の皆さまのご意向を尊重しながら、無理のない形で参加できる地域との繋がり作りを目指して取り組んでまいります。